

2. 保健科学課（微生物）

主な業務は、食品衛生法、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律および感染症発生動向調査事業に基づく細菌およびウイルス検査であり、3つの担当で実施している。

1) 細菌担当

平成21年度に実施した定期業務は、食品衛生法および環境衛生・環境保全関係法律に基づく行政収去による各種細菌検査であり、表1に検体数の総括を示した。

表1 検体数総括

区分	計	行政検査	
		保健所	その他
食品収去検査	1,357	1,353	4
環境衛生関係検査	593	593	
環境保全関係検査	30		30
計	1,980	1,946	34

(1) 食品収去検査

食品収去検査は1,357件、3,704項目実施し、表2に食品分類別検体数および項目数を示した。

(2) 環境衛生関係検査

環境衛生関係検査は、専用水道原水、プール水、公衆浴場水、おしぼり（リネン関係）等の細菌検査を実施し、表3に検体数および項目数を示した。

(3) 環境保全関係検査

環境保全関係検査は、事業場排水の細菌検査を実施し、表4に検体数および項目数を示した。

表4 環境保全関係検体数および項目数

区分	検体数	大腸菌群
事業場排水	30	30

表3 環境衛生関係検体数および項目数

区分	検体数	項目数計	項目						
			一般細菌数	大腸菌群	黄色ブドウ球菌	大腸菌	レジオネラ属菌	官能検査	その他
専用水道水	130	260				130			130
プール水	122	244	122			122			
公衆浴場水	333	335		2			333		
リネンサプライ等	8	32	8	8	8			8	
計	593	871	130	10	8	252	333	8	130

表2 食品収去検査食品分類別検体数および項目数

食品分類	項目数計		検査項目																						
	検体数	項目数	大腸菌群	黄色ブドウ球菌	サルモネラ	E. coli	大腸菌	O157	O26	VTEC	カンピロバクター	乳酸菌	腸炎ビブリオ	ブドウ球菌エンテロトキシン	クロストリジウム属菌	リステリア	抗生物質	恒温試験	細菌試験	総菌数	緑膿菌	腸球菌	赤痢	ノロウイルス	
牛乳・加工乳	18	66	14	4	4						4			18			4			4					
乳製品	27	46	6	24					12		4														
アイスクリーム類	45	90	45	45																					
氷雪	5	10	5	5																					
清涼飲料水	64	128	62	64																					
魚介類	233	494	219	150	1	5	15	3	87		165														
肉・卵類	245	698	7	5	2	181	3	96	105	97							37						10	4	
食肉製品	19	56	1	18	18									1											
鯨肉製品	4	7	3	4																					
冷凍食品	24	66	24	18	2	10	6																	3	
弁当・惣菜類	410	1243	410	410	407	16																			
菓子類	78	275	78	78	41																				
穀類・麺類	45	135	45	18	45	27																			
豆腐	36	72	36	36																					
漬物	30	120			30	30	30	30																	
瓶詰・缶詰・レトルト	18	36																						18 18	
野菜類	10	40			10	10	10	10																	
その他	46	122	46	46	30																				
計	1357	3704	1000	918	587	310	59	136	160	137	3	169	12	90	18	1	41	18	18	4	4	1	1	13	4

2) ウイルス担当

平成 21 年度に実施した定期業務は、感染症発生動向調査事業に関わるウイルス検査、市民から依頼される HIV や風疹等の血清検査、および二枚貝のノロウイルス検査である。

各試験検査の検体数を表 5 に示した。

表5 検体数総括

区 分	計	行政検査 (保健所)	調査業務
感染症発生動向調査 事業ウイルス検査	206		206
HIV抗体調査	3,813	3,813	
クラミジア抗体検査	1,735	1,735	
風疹抗体検査	111	111	
二枚貝の ノロウイルス検査	4	4	
計	5,869	5,663	206

(1) 感染症発生動向調査事業ウイルス検査

感染症発生動向調査事業は、8 医療機関に 9 つの検体採取定点を指定して実施している。

平成 21 年度は表 6 のとおり患者 187 名、206 検体が搬入され、ウイルス分離を行った（詳細は資料に記載）。

表 6 感染症発生動向調査事業検体数の推移

年度	平成 17	18	19	20	21
患者数	157	208	165	166	187
検体数	177	250	182	191	206

(2) HIV 抗体検査

昭和 62 年 10 月以降、市民からの HIV (HIV-1, HIV-2) 抗体検査依頼を保健所で受け付け、当所で検査を実施している。

平成 21 年度は 3,813 検体を実施し、このうちスクリーニング検査陽性の 9 検体については確認検査を行った結果、8 検体が陽性であり、残りの 1 検体は判定保留であった。

平成 17 年度からの年度別検体数の推移を表 7 に示した。

表 7 HIV 検体数の推移

年度	平成 17	18	19	20	21
検体数	3,215	3,867	4,603	4,761	3,813
陽性数	6	11	14	7	8

(3) クラミジア抗体検査

平成 13 年 6 月から、市民のクラミジア抗体検査依頼を保健所で受け付け、当所で検査を実施している。

平成 21 年度は、1,735 検体を実施した（表 8）。また平成 17 年度からの年度別検体数の推移を表 9 に示した。

表 8 クラミジア検査状況

検体数	IgA 抗体			IgG 抗体		
	陽性	陰性	保留	陽性	陰性	保留
1,735	197 (11%)	1,468 (85%)	70 (4%)	247 (14%)	1,431 (82%)	57 (3%)

表9 クラミジア検体数の推移

年度	平成 17	18	19	20	21
検体数	2,818	1,814	2,265	2,345	1,735
IgA 陽性数	288	167	245	239	197
IgA 陽性率	10%	9%	11%	10%	11%
IgG 陽性数	411	245	325	344	247
IgG 陽性率	15%	13%	14%	15%	14%

(4) 風疹抗体検査

昭和 52 年度以降、妊娠適齢期女性を対象とした風疹抗体検査を保健所で受け付け、当所で検査を実施している。

平成 17 年度からの年度別検体数の推移を表 10 に示した。平成 21 年度の抗体陰性率は、表 11 に示すとおり、8.1%(9/111)であった。

表10 風疹検体数の推移

年度	平成 17	18	19	20	21
検体数	173	127	140	175	111
陰性率	10%	12%	10%	9%	8%

表11 年齢群別風疹 HI 抗体価分布及び陰性率

年齢	HI抗体価								計	陰性率 (%)
	<8	8	16	32	64	128	256	512≤		
≤19	0	0	0	0	0	0	1	0	1	—
20~24	1	0	2	1	1	2	0	1	8	12.5
25~29	3	0	6	5	7	7	4	0	32	9.4
30~34	3	0	3	5	10	9	2	4	36	8.3
35~39	1	0	1	6	4	3	4	2	21	4.8
40≤	1	0	1	2	3	2	3	1	13	7.7
計	9	0	13	19	25	23	14	8	111	8.1

(5) 二枚貝のノロウイルス検査

ノロウイルス食中毒予防対策の一環として、平成 21 年 11 月から平成 22 年 2 月にかけて二枚貝の収去検査を実施した。

4 検体の検査を実施し、どの検体からもノロウイルスが検出されなかった。

3) 感染症担当

感染症担当が平成21年度に実施した定期検査は腸内病原菌検査、結核菌検査、梅毒血清反応および原虫・寄生虫等であり、表12に検体数と項目数を示した。

表12 定期検査検体数総括

業務名	検体数	延べ項目
腸内病原菌検査	2,246	6,738
結核菌検査	13	26
梅毒血清反応	621	1,242
原虫・寄生虫等	51	51
計	2,931	8,057

表13 腸内病原菌検査依頼別検体数

区分	計	東	博多	中央	南	城南	早良	西
検体数	2,246	327	203	711	361	252	230	162

(1) 腸内病原菌検査

腸内病原菌検査の検査件数は 2,246 件で、赤痢菌、サルモネラ（チフス・パラチフス含む）および腸管出血性大腸菌の 3 菌種について、それぞれ病原菌の検索を行った。検体は健康診断等の一般検便で保健所からの依頼によるものである。表 13 に依頼別検体数を示した。

菌種別の陽性件数は、赤痢菌、チフス・パラチフス菌が 0 件で、腸管出血性大腸菌が 1 件(0.04%)、サルモネラが 2 件 (0.09%) であった。

(2) 結核菌検査

結核菌検査は主に管理検診関連によるもので、市内の保健所から依頼があった 13 件について塗抹および培養検査を実施した。陽性は 0 件であった。

(3) 梅毒検査

梅毒血清反応は 621 件について実施した。検査方法は TPHA 法、RPR 法を同時に実施し、必要に応じて FTA-ABS 法を実施した。陽性は 27 件 (4.35%) であった。

(4) 原虫・寄生虫検査

原虫・寄生虫検査は、蟻虫卵 50 件、その他 1 件、計 51 件の依頼であった。